

十和田八幡平国立公園に北東北の観光拠点となる施設が誕生。

どんな季節でも快適なサステナブル宿泊施設&飲食店

「Canteen & Microhotel uqui（うき）」オープン！



十和田八幡平国立公園内、青森県十和田市にある宇樽部（うたるべ）キャンプ場にて十和田サウナを運営する合同会社ネイチャーセンス研究所（本社：青森県十和田市）が、十和田湖の観光拠点である休屋エリアに、小さなホテルと夜の食堂をオープンさせることになりました。

近年インバウンド観光客の増加が著しい十和田湖エリアにて、外国人対応も視野に入れたサービスの提供、国立公園にふさわしいサステナブルな施設を目指していきます。

【URL】 <https://uqui.jp>

「晴好雨奇」。どんな天候でも十和田湖の魅力を体感するためのお手伝いをする

中国の詩人、蘇軾が詠んだ「晴好雨奇（せいこううき）。私たちはまさにこのことばに、十和田湖の新しい施設のコンセプトを見出しました。晴れはもちろん良いが、雨は予想できないほどの何かをもたらしてくれることがある。十和田湖は山上の湖、突然の雨や風、霧に包まれることも少なくありません。まして冬は深い雪に覆われます。しかし、だからこそ出会えるものがあります。季節の移ろいの中にある儚い美しさ。それは一瞬

でも見逃せない十和田の宝です。私たちは施設を通して訪れたゲストが、さまざまな十和田湖を体感できるようにお手伝いをしていきます。

5つのゲストルームのコンセプトは「ユキ」、「アメ」、「キリ」、「クモリ」、「ハレ」。それぞれのテーマに合った本の選書やインテリアのカラーを楽しむことができます。

建物は 200 m²程度の一軒家をリノベーション。建築設計は東京と岩手県・盛岡を拠点にして活動する atelier meie (アトリエメイエ)。建築家の中村好文氏に師事し、レミングハウスで様々なプロジェクトを担当してきた双子の設計士で、代表作に モリオカえほんの森保育園 などがあります。施工は青森県六戸町に本社を構えるユタカ工業に依頼しました。



皆無だった夜の飲食店をオープン。北東北の食材を使った世界の料理を提供



東日本大震災以降、十和田湖には夜を楽しむための飲食店の姿がなくなりました。

当施設では、夜の賑わいを取り戻したいと、宿泊客以外のゲストも利用できる夜の食堂を併設します。

南部の郷土料理「ひつつみ」はパスタへ、津軽りんごはガトーアンビジブル（りんごのケーキ）、南部せんべいでいただく十和田にんにくのガスパチョなど、地元食材を世界の料理にアレンジ。いくつかのメニューはベジタリアン／ヴィーガン対応とするなど、世界各国からの旅行者が集まる十和田湖らしいラインナップです。メニュー開発には発酵料理家・真藤舞衣子先生を迎え、「発酵」も随所に感じられるようになっています。真藤先生の最初の著書は「ひつつみ」がテーマ。青森県三戸にもゆかりがある方です。

ドリンクはワインを中心に、地元の日本酒など、徐々にラインアップを増やしていく予定です。

メニュー例)

ひつつみパスタ／秋田だまことショットブラール（スウェーデンのミートボール）／南部せんべいでいただく十和田にんにくのガスパチョ／青森 海と大地のセビーチェ

デンマーク発の国際認証「グリーンキー」取得を目指すサステナブルな施設

国立公園にふさわしい、サステナブルな環境をととのえていくことを前提に新規事業を計画してきました。

具体的にはデンマーク発の国際認証「グリーンキー」の取得を目指します。（開業後半年を目処に審査申込予定）

窓は三重サッシを採用、断熱材も強化することによって、輻射熱冷暖房「PS」の導入が叶いました。寒冷地では主流の灯油の使用を取り止め、化石燃料に極力頼らない施設を目指します。（給湯のみ LP ガス）電力は、秋田県鹿角市の地域新電力「かづのパワー」と契約し、再生可能エネルギー実質 100%で運営します。（2025 年 5 月以降）

また、トイレなどの衛生設備においても節水型を選定、自動水栓にするなど流量が管理ができるものとなりました。ゲストが使用するアメニティについて、寝具・リネン類は全ての商品に「エコテックス®スタンダード 100」の認証を取得している自然派高機能寝具のメーカーIWATA（京都市）を採用。使用する洗剤もサステナブルな認証を取得しているものを選定。電気自動車の充電設備も完備するなど、環境配慮型の施設となっています。



グラフィック



ロゴや施設内のピクトグラム、グラフィックは青森県弘前市を拠点に活動する SUNDAYSEASIDE 島村鈴香氏に依頼。

uqui のロゴは十和田湖で獲れるヒメマスを冠に、コンセプトである十和田湖の天候を詰め込みました。両サイドには「鵜（ぬえ）」という生き物を配置。

「鵜」は夜中に奇妙な鳴き声で人を脅かす生き物として平家物語などに登場しますが、その正体はトラツグミという夜に鳴く鳥でした。十和田湖でも初夏の夜に賑やかな声を響かせるトラツグミに、夜の賑わいを生むという願いを込め、モチーフにしました。



所在地：青森県十和田市奥瀬十和田湖畔休屋 486

«Microhotel»

料金：1泊2日 15000円～（税・サ込）※素泊まり

客室数：5室（ダブル2、シングル3）

※バス・トイレは共用

チェックイン：15:00～、**チェックアウト：**10:00～

«Canteen»

営業時間：17:00～21:00（L.O.） ※22:00 閉店

定休日：火、水曜

合同会社ネイチャーセンス研究所

うたるベキャンプ場内にてネイチャーサウナ「十和田サウナ」を運営するほか、地域のイベントや小冊子などの編集業務も行う。

【会社概要】

社名：合同会社ネイチャーセンス研究所

本社所在地：青森県十和田市奥瀬十和田湖畔休屋 486

代表社員：安藤和香奈

事業内容：野外サウナ、簡易宿所・飲食店の運営、編集業務など

設立：2021年3月

【問い合わせ】

info@uqui.jp（担当：安藤／千葉）

写真＝熊原哲也